2Up-11

まちに対する子どもの意識について

町並み探検をとおして

平安女学院短大　○室﨑　生子

目的　まちづくりは住民の創意がいかされるかたちでおこなわれることが望ましい。それには子どもの時からまちへの関心をどう育てるかが課題となる。そのため、まず、子どもたちはまちをどのように認識しているかを把握することを第一の目的とした。ついで、町並みやまちづくりに関心をもつようにするにはどのようにしたらよいかについての知見をえることを目的とした。ここでは、町並み探検というひとつの取り組みをとおして、その方法の有効性について検討する。

方法　町並み探検をやってみたい子どもたちを募集した。3 ～5 人のグループに分け、グループにはリーダー役の短大生（ 女子）がひとりづつついた。班ごとに子どもたちの生活施設の認識度や遊び場などこどもたちが知っているまちについての情報を地図にプロットする。それによって、現在のこどもたちのまちでのくらしとまちに対する認識の状況を把握する。その後、グループごとに一定の範囲をみてまわり（ 探検）、面白いとか綺麗とかいろいろ気づいたことを地図に記入し、写真をとるという方法をとった。後日、その日の体験の感想文をかいてもらった。

結果　子どもたちのまちへの認識はみのまわりの生活施設を中心としつつ、子どもたちどおしの塾の情報や、スーパーなどは広域化している。また、まちの空間の情報は怖いとか楽しかったとかきれいとか聞いた話とか感性の関連した情報として記憶されている。

町並み探検の結果は知ってるつもりのまちがみんなでみてまわると知らないまちのようで新鮮な発見があったようだ。また、「ひとつおとなになった気がした。」等の感想文にみるように、まちをみるということを意識した取り組みのもつ効果を示したといえる。